



# 利権屋の宣傳に 惑はさる勿れと

## 反対同盟會が奮起

### 對抗的に宣傳書を配布

大瀧發電所許可反對同盟會にては利権屋一派が盛んに手前勝手な宣傳を爲し町民を惑はさんとする行動を憎み是れに對抗すべく左記の如き宣傳書を印刷して一般に配布する事となつた

一、平三萬町民の命の綱である上水道の脅威たる大瀧發電所の設置計劃者所謂一部の利権屋と目されて居る人達は昨今電氣町營を盛んに述べて居ります、然も其事に就いて平電氣會社は會社の權利を平町に無償で提供する事を本會に對し申出たに拘らず是れを何等の理由なく本會が拒絶したと宣傳して居ります

一、成程左様な意味合の話が本會幹部の一人に非公的に齎らされた事はありますが其際本會の幹部會に此事を諮つた結果水利權の讓渡は水利規則違反であると共に虚偽の文書を作成して得た不正の水利權であり且つ同水利權は小田炭礦と平電氣との間に複雑な關係のある事を知つて、左様な相談には乗れぬとの意見に一致したのであります彼等の云ふが如き正式の交渉等は未だ會つて一回も受けた事がありません

一、現在彼等の説く電氣町營なるものは彼等の持つ餘した因縁付きの水利權を

平町に對して無理に押し賣りしやうとするものでありまして吾人は彼等一派の此の宣傳に惑はされてはなりません

一、若し眞に彼等が愛町の赤誠より大瀧發電所の町營を主張するものとするれば次の様な態度に出づべきが至當であると思ひます

一、一旦大瀧の水利權を綺麗サツパリと放棄して後平町をして新たに同權利を獲得せしむべく町と共に協力して働くべきであります

一、右の如き態度に出でてこそ始めて彼等の誠意のある處を肯く事が出来るのであります彼等一派に左様な襟度を有せざる事は事實が雄辯に立證して居ります然も彼等が徒らに電氣町營の有利なる事を看板に掛けて恰も本會が其町營に反對して居るが如き言を構へて居る事は良民を惑はす彼等の惡宣傳であります

一假りに彼等が前項に述べたが如き誠意誠心を披瀝するものであつたとするれば電氣町營に就いて吾人は相當の調査研究を遂ぐる餘地もありませう、然れ共一口に町營と申しても彼等の云ふが如く簡單な譯には参りません、と云ふのは先づ平町が電氣を経営するとすれば

は東部電力株式會社が平町に得て居る既得權を買収せねばなりません

一、而して是れを買収するとすれば約三百萬圓以上の金がかかるので事です目下經濟的に逼迫を告げて居る平町が此大金を捻出する事云ふ事は甚だ至難の問題であること云はねばなりません、のみならず夫れとも果して買収に應ずるや否や大なる疑問とする處有ります

一、又平町に點燈するを目的とせず單に磐城炭礦に動力を賣り付ける事のみを目的として町營とするものなれば町が一種の營利行爲を行ふ事でありますから縣廳は法人に商賣を營む事に對して許可を與へらるべきものとは思はれません

一、故に利権屋に戀々たる彼等が此際雖然己れの非を悟つて水利權を立派に放棄するに非ざれば平三萬の町民は彼等の甘言に乗せられぬ様飽迄も彼等の言動を監視すべきであります

一、尙ほ彼等の言ふが如く水槽から直接水道送水管に送水すれば一厘一錢の金



家庭欄

タケノコ肉づめ

豚はひき肉にして摺鉢に入れ、水につけたパン二十枚、玉子を割つて一緒に入れ、玉ネギをおろし金でおろし、しばつて其の汁だけ入れよ

も入らず、現在の二倍半の水を取らるゝと云ふ事や一部分のコンクリート管を改修すれば現在の數倍の使用力を有すと云ふ事は一顧の價値なき空論であります

一、是等に就いての理由や其他詳細は彼等の御注文通りな科學的理論に依つて

## 自治功勞者の表彰

### 榮あを日に輝く其氏名

既記平町にては明日銀婚式を記念せんが爲め高齢者を慰安し自治功勞者を表彰する筈であるが自治功勞者氏名は左記の如くである

(町會議員) 諸橋國松、榊田榮太郎、永山和幸、小野園次郎、酒井國三郎、谷口仁太郎(町學務委員)山崎與三郎(町書記)遠藤五三郎、渡邊太次郎(區長)山崎喜正、神谷玄佐雄、(第一校訓導) 渡邊豊吉、(第二校訓導) 小野幸次郎、鈴木實雄、矢吹キク、學校醫) 市原卯太郎(平消防組頭) 井上茂作(同副組頭) 石坂詔太郎(同小頭) 柏原幸次郎(役場使丁) 佐藤啓次郎(小學校使丁) 山野邊豊吉

## 佐藤氏出馬

### 候補者は定員

候補者難に陥つた研古雨町にては平銀行員佐藤芳松氏に對し全町舉つて極力出馬を懇請した結果本日午前十時立候補の承諾を得た、是れに依つて平町の候補者は丁度定員に達する事となつた

## 募集

文藝其他投稿を募集します

の、上に此のソースをかけます。

筈はさみ焼、豚でも牛でも鳥でも二十位の大きさに薄く切り醬油につけ筈も同じ大きさに切り二枚のタケノコの間に肉一切を挟んで櫛にさしてやき、砂糖とみりん醬油を煮立て、二度位つけてやきます

## 野崎滿藏君に答ふ

### 足下に一片の誠意なし

### 川崎文治

野崎滿藏君は昨日の磐城新聞紙上に「川崎君の迷説を駁す」と題し余の大瀧發電所問題に對する行動に關し批難的な筆を

### 構へて 挑戦し來つた、然れ共文中感情に駆られて余を目するにお断屋てふ罵言を以つてし甚だきに至つては妄想狂呼ははりを爲すに及んでは苟くも平町に於ける憲政の重鎮を以つて自任する足下の言として甚だ肯定し得ざるものであつて匹夫馬丁に劣る見

### 同情の 涙を禁せざるものがある。余は先づ足下に聞かなければならぬ

夫れは足下が此程「大瀧發電所と電氣町營に就て」と題する印刷物を全町に配布した其宣傳文に依ると

「私は昨年七月大瀧發電所問題の紛擾中事業の國家的にして地方工業に裨益するのみならず平町水益に甚大な利益を齎らす事を確信し敢然専務取締役となり就任三日目に

### 料理店 玉よしの樓

上にて大森勇君に對し無償提供らしい話を持ち掛けたのは日誌を繰る迄もなく余の腦裏にそれが昨年の七月九日の日である事が印象付けられて居る、果して平町の町營を條件として會社の權利を無償讓渡する事が足下の本意であり夫れが爲め

### 足下の 云ふが如く

敢然として専務取締役に就任したかごうか、余は決して斯かる愛町の信念よりして取締役の立場に身を置き平町に有利なる解決を告ぐべく努力する覺悟を有せるものなりとは信じ難いのである、何故となれば足下が専務に

就任し 後即ち七月十一日の日付を以つて平町に撤布した「平町民諸君に告ぐ」なる宣傳書の中に「けん利の無償提供或ひは電氣の町營説が一言半句も書かれてない、のみならず同宣傳書の末尾には

自分の經營する會社の利益を永久に放擲するに忍びません

と書いてある是れに依つて見れば足下は栗原前の専務が縣廳に出頭せる際知事の前に水利けん放棄を契つた爲め會社重役の意見を徵せず栗原専務が勝手に水利けん放棄を契つたが如きは越けんの處置なりとの

表面の 理由を附し飽迄大瀧發電所の利けんを握り締めて事を策せんと栗原君と馴れ合ひの上専務を退かして足下自身が是れに代り種々利けん伸長の爲めに策謀せるものとより外に考へ様はない

(續)